

大腸通過時間測定X線不透過マーカ―検査シエーマ

(日本神経消化器病学会 ワーキンググループ作成)

X線不透過マーカ―による大腸通過時間測定の適応：初期薬物治療で効果不十分の慢性便秘症

慢性便秘症の初期薬物治療

酸化マグネシウムなどを原則として第一選択薬とし、使用に適さない場合や効果不十分な場合は②～⑦の中のいずれかの薬剤へ変更または追加を考慮する。ただし⑦刺激性下剤は頓服で使用する

- ①酸化マグネシウム ②ポリエチレングリコール ③粘膜上皮機能変容薬 (ルビプロストン、リナクロチド)
④エロピキシバッド ⑤ラクツロース ⑥漢方薬 ⑦刺激性下剤

- 注) 1. 腎機能異常 (eGFR<60) があれば、酸化マグネシウムの減量 or 他剤を選択
2. 症状改善があれば投与量の調整
3. ルビプロストンは妊婦又は妊娠している可能性のある女性には禁忌
4. オピオイド誘発便秘の場合はナルデメジンの投与を考慮

効果不十分

大腸通過時間測定検査

- ① 5日法：1回不透過マーカ―服用5日後の残存マーカ―を測定
② 3日法：1回不透過マーカ―服用3日後の残存マーカ―を測定
(刺激性下剤以外の服用下剤は継続して検査を施行)

残存マーカ―が5日法では20%以上、3日法では40%以上をSTCと判定

- 注) ・特別に病態を把握する必要がある場合は、下剤を一時中断して5日法で施行
・検査実施にあたっては、腸閉塞が認められないことを確認して行う
・不透過マーカ―服用日から30日以内に腹部X線を撮影し、マーカ―が残存していないことを確認する

① 5日法：残存マーカ―が \leq 20%未満 ② 3日法：残存マーカ―が \leq 40%未満
大腸通過正常型：Normal Transit constipation (NTC)
便排出障害型：Defecation disorder (DD) (直腸肛門機能異常疑い)

① 5日法：残存マーカ―が \geq 20%以上 ② 3日法：残存マーカ―が \geq 40%以上
大腸通過遅延型：Slow transit constipation (STC)
(ただし便排出障害型との合併もある)

追加治療

大腸通過時間測定検査

治療効果判定